

佳作

ホウセンカリベンジ

大阪府 枚方市立菅原東小学校四年 安田 沙夏

四年生になって、初めて感動作文という夏休みの宿題が出た。この宿題が配られた時、わたしは「うれしいことやおもしろいことはいっぱいあるけど、感動することってなんだろう？」と思った。

家で感動することを考えていたら「自分で育てたホウセンカがさいた、あの日」が思いうかんだ。お母さんに話してみると、

「身近なことで感動を見つけられてすてきだね。」と言ってくれたので、そのことを書いてみようと思う。

学校では、一年生の時からいろいろな花を育ててきた。自分せん用の植木ばち、とてもうれしかったなあ。朝顔にチューリップ、オクラにホウセンカ。でもわたしは一年生のときの朝顔以外はさかせることができていない。

三年生で育てたホウセンカ。タネを四回ぐらい植

えかえても芽が出なかった。

「あ、わたしのは芽が出る！」

と、となりでそんなお友達の声が聞こえると、ちょっと悲しい。くやしい。「みんなと同じように水やりをしていたのになあ」。どうやら、ちゃんとお世話をしてもさかないこともあるみたい。むずかしいなあ。

そして今年の夏。去年学校でもらったホウセンカの種を家で植えてみた。ホウセンカリベンジだ。鼻くそくらしいの小さな小さな種。自分の鼻息でふき飛ばしてしまいうそう。グツと息を止めながら、やさしく土の中に入れた。ドキドキしながら「今度こそ」とねがいをこめた。数日後、土の中から緑の頭がニョキッと出ていた。小さいけれどちゃんと出ている。「かわいい。うれしいな」。とってもうれしかったので、朝起きると水やりをすることがわたしのつかになった。ホウセンカはぐんぐん育ち、緑のつぼみがふくらみ始めた。

ある日の朝、水やりに向かうと、

「えっ！あなた白色だったの!？」

と思わず声が出てしまうほど、ホウセンカがきれいな白い花をさかせていた。去年学校で見たホウセンカは、むらさきやピンクのものが多かったので、まさか白い

花に出会えるとは思わなかった。わたしは、まるでおなかで大事に育てた赤ちゃんにやっ与会えたママのよくな気持ちだ。花がさいた、たったそれだけのことももしれないけれど、大切に育ててお世話をして、とてもきれいな花を見ることができて感動した。

お母さんがほめてくれたように、感動は結こう身近に落ちているのかもしれない。こんな小さな感動でもこれからどんどんふやしていきたい。小さな感動を見つけたのは、うまくいかなかったけいけんや何かを大切に思う気持ちがあったからかもしれない。そう思うと、これからたくさんいいこともうまくいかないこともけいけんして、わたしの感動センサーを育てていきたいなあと思った。